

第一回

下掛宝生流能の会

平成二十五年三月十七日(日)

午後二時開演

於 国立能楽堂

ご挨拶

仲春のみぎり、皆様にはますますご清祥のことと拝察申し上げます。本日はご多用のなか「第一回 下掛宝生流能の会」にご来場頂き、誠に有難うございます。

最近では、少しでも多くの皆様に能に親しんで頂こうと様々に工夫を凝らした公演が数多く催されております。また、志を同じくする能楽師で結成された会や自己研鑽を第一に据えた会なども盛んで、それぞれに能楽の未来を考えられてのことと思えます。このような中、私ども下掛宝生会としても何か出来ることがあるのではないかと、かねてより流友内で話し合っけて参りました。

この度「下掛宝生流能の会」を発足し、継続的に活動していく場を持つことで、ワキ方の技芸の習得、継承、向上に一層の精進を致し、能楽の普及と発展に微力を尽くす所存でございます。もちろん技芸ばかりでなく、能本来の「雅」な世界の表現も大事にしていきたいと存じます。特に私たちワキ方の役は、いわば風流人だと思っております。花鳥風月に心を寄せ、男女夫婦の情けを知り、親子師弟の契りを尊む、そういう風情をワキが持っていないとシテも出にくいのです。情報化が進み便利さを追い求められる慌ただしい毎日の中にも、それが知らぬうちに舞台にも表れてしまいます。目の前の現実には流されない心の余裕というものが本当は必要なのではないでしょうか。流儀一同、この「心」と「体」の練磨に励んで参りたいと存じます。どうか末永くご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

折節、松本謙三師、森茂好師、殿田保輔師 各師の追善の時期に当たります。また、流儀の相談役として長らくご尽力頂いた、善性寺(宝生家菩提寺) 前ご住職・望月日惺上人が一昨年遷化なさいました。三師お上人へのお手向の気持ちを込めまして勤めさせて頂きます。

本日は有難うございました。

下掛宝生流 第十二世宗家 宝生 閑



宝生

「雅」筆 宝生 閑

表絵柄 下掛宝生流扇「東雲霞(しののめがすみ)」
宝生家紋「裏撫子(うらなでしこ)」
写真 昭和48年10月5日 芸術祭能
ワキ 宝生弥一 撮影 宝生写真部 亀田邦平

第一回 下掛宝生流能の会

平成二十五年三月十七日(日) 午後二時開演

素謡

経

政

シテ 宝生 閑
ワキ 野口 敦弘

地謡

館田 善博 苗加登久治
吉田 祐一 宝生 欣哉
平木 豊男 工藤 和哉
坂苗 融 高井 松男

仕舞

俊成忠度
天鼓

キリ

香川 靖嗣
友枝 昭世

地謡

大島 輝久
長島 茂
栗谷 明生
内田 成信

狂言 八句連歌

貧者 野村

萬

某 野村

扇丞

日野中納言資朝 武田 孝史

梅若丸 宝生 尚哉

熊野権現 高橋 章

能 檀 風

帥の阿闍梨 森

常好

本間三郎 殿田 謙吉

棹サシ 野口 能弘

興昇 森 常太郎

野口 琢弘

間 本間の下人 野村 万歳

早打 野村太一郎

後見

近藤乾之助

宝生 和英

朝倉 俊樹

脇後見 宝生 欣哉

地謡

小倉伸二郎 大坪喜美雄

水上 優 三川 泉

東川 光夫 小倉 敏克

金井 雄資 佐野 由於

大鼓 亀井 忠雄 太鼓 金春 國和
小鼓 大倉源次郎 笛 一噌 庸二



松本謙三氏

明治32年 3月21日 富山県城端町に生まれる
 42年 下掛宝生流10世宗家 宝生新に入門
 43年 「岩船」ワキで初舞台
 昭和28年 芸術祭賞受賞
 31年 野口敦弘指導始
 32年 重要無形文化財総合指定を受ける 大阪府民賞受賞
 34年 第一回広瀬能楽賞受賞
 40年 老女物全曲演了
 41年 重要無形文化財個人指定を受けワキ方で初の人間国宝となる
 44年 勲四等旭日小綬賞受賞
 47年 富山県城端町名誉町民第一号を受ける
 55年 9月15日 永眠 享年81歳
 56年 第一回華宝会・松本謙三一周忌追善能(野口敦弘主催)
 松本謙三氏主宰「霞会」を引き継ぎ、以後「華宝会」と名称を変え
 現在まで続く 敦弘長男に能弘、次男に琢弘



森茂好氏

大正 4年 12月14日 宝生新の庶子として東京に生まれる
 昭和 6年 「春日龍神」ワキツレにて初舞台
 昭和30年 芸術祭奨励賞受賞
 昭和40年 日本能楽会理事、能楽協会理事となる
 昭和45年 重要無形文化財総合指定を受ける
 昭和52年 東京芸術大学講師となる
 昭和56年 芸術選奨文部大臣賞受賞、観世寿夫記念法政大学賞受賞
 昭和58年 紫綬褒章受章、森茂好名吟集上梓
 昭和61年 重要無形文化財個人指定(人間国宝)に認定
 平成 元年 勲四等旭日小綬章(叙勲)受ける
 平成 3年 2月7日 自宅にて永眠 享年75歳
 長男に常好 孫に常太郎、館田善博



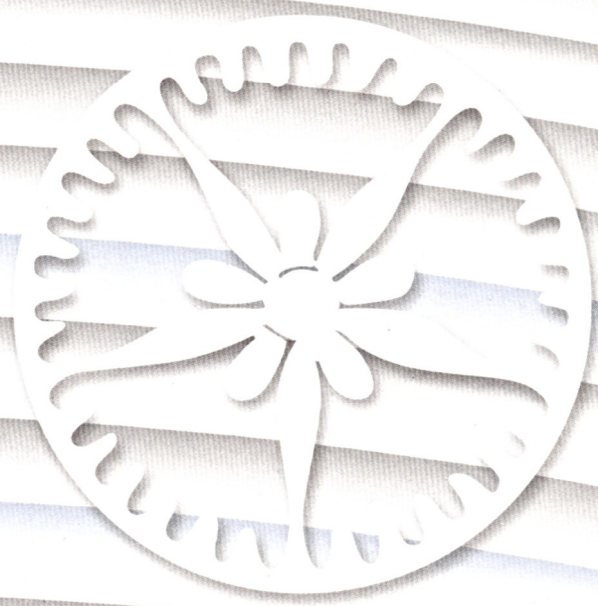
殿田保輔氏

大正15年 9月11日 殿田源二の長男として石川県金沢市に生まれる。名は保雄
 昭和16年 松本謙三に入門
 昭和21年 「小督」ワキで初舞台
 昭和34年 保輔(やすすけ)と改名
 昭和50年 重要無形文化財総合指定を受ける
 昭和55年 松本謙三師傘寿・斯道七十周年記念北陸五流能を金沢霞会代表として主催
 北國芸能賞(北国新聞社)受賞
 昭和62年 金沢市文化賞受賞
 平成 3年 7月31日 自宅にて永眠 享年64歳
 金沢市より「景仰の証」を受く
 長男に謙吉 苗加登久治、平木豊男は金沢にて遺志を継ぐ



望月一靖氏(一如院日惺上人)

大正14年 11月25日 宝生新の孫として東京に生まれる 宝生閑、森常好とは従兄弟の間柄
 昭和28年 早稲田大学文学部哲学科心理学専攻大学院 終了
 46年 立正大学文学部教授 学校法人立正大学学園常務理事
 57年 日蓮宗 宗務副総長
 59年 日蓮宗総本山身延山久遠寺 総務
 身延山大学学園理事長、身延山病院理事
 平成 5年 荒川仏教会理事長
 8年 立正大学名誉教授
 10年 日蓮宗東京都北部宗務所 相談室長
 12年 日蓮宗東京都北部宗務所 和合会会長
 23年 11月23日 遷化 享年85歳
 現在、長男の兼雄氏が下掛宝生会相談役を引き継ぐ



主催
下掛宝生会

